

法華経 日めくり

令和 8 年 丙午

2026年

1月

1日

大安 参

旧 11 月 13 日

木曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

亦復与其 陀羅尼呪

「法華経の修行者に陀羅尼を与える」

普賢菩薩は末法に法華経を弘めようとする修行者のために陀羅尼呪を与えると申し出ました。

悪しき者による迫害や、世俗のさまざまな誘惑によつて分別を失わないようという呪文です。

お釈迦さまからお許しを得ることによつて、普賢菩薩も仏さまのお力をいただいたのです。

この短い呪文の中に深い意味が込められているのであるから、その意味を深く理解し、迷つたときの道しるべとして心に刻みたいものです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

2日

赤口 井

旧11月14日

金曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪①

「阿檀地 檀陀婆地 檀陀婆帝 檀陀鳩賒隸」

普賢菩薩の二十の陀羅尼呪を紹介していきます。

①阿檀地(あたんだい)…「無我」と訳し、自分の利害損得を考えず一切衆生のために尽くすこと。

②檀陀婆地(たんだはだい)…「除我」と訳し、自分の利害に執着せず、一切衆生の幸福を願うこと。

③檀陀婆帝(たんだはてい)…「方便」のこと。相手の理解度に応じて、わかりやすく説くこと。

④檀陀鳩賒隸(たんだくしゃれ)…「仁和」と訳し、己を捨て他者の幸福を祈り、皆で和合すること。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

3日

先勝 鬼

旧11月15日

土曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪②

「檀陀脩陀隸 脩陀隸 脩陀羅婆底 佛駄波羶禰」

⑤檀陀脩陀隸(たんだしゅだれい)…「甚だ柔軟」と訳し、自己に固執せず柔軟な心でいること。

⑥脩陀隸(しゅだれい)…「甚だ柔弱」と訳します。

「柔軟」は心、「柔弱」は行いの柔らかさを示し、自己の主張を押し通さないこと。

⑦脩陀羅婆底(しゅだらはぢ)…「苟見(こうけん)」と訳し、仏の真意の一片でも見えること。

⑧仏駄波羶禰(ぼつだはせんね)…「諸仏廻」と訳し、自分の善行の結果を他者にめぐらせること。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

4日

友引 柳

旧11月16日

日曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪③

「薩婆陀羅尼阿婆多尼 薩婆婆沙阿婆多尼 倭阿婆多尼」

⑨薩婆陀羅尼阿婆多尼(さるばだらにあばたに)…「諸總持廻」と訳し、善いことを保ち悪いことを正し、その感化を周囲に及ぼすこと。

⑩薩婆婆沙阿婆多尼(さるばばしゃあばたに)…「衆に行じて説く」と訳し、皆を感化するような行動をした後に説くこと。

⑪脩阿婆多尼(しゅあばたに)…「皆廻転す」と訳し、善行による感化が小さな範囲にとどまらず、次々に周囲に広がること。

法華経 日めくり

令和8年丙午
2026年

1月

5日

小寒
先負 星
旧11月17日

月曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪④

「僧伽婆履叉尼 僧伽涅伽陀尼 阿僧祇」

⑫僧伽婆履叉尼(そぎやはびしゃに)…「尽く集会する」と訳し、皆が一つの所に集まること。真実の教えに導かれた修行者の仲間ができること。

⑬僧伽涅伽陀尼(そぎやねきやだに)…「衆趣を除く」と訳し、種々の悪趣を取り除くこと。悪趣とは地獄・餓鬼・畜生・修羅などのこと。

⑭阿僧祇(あそうぎ)…「無数」と訳し、一人が正しい信仰を積み仏に近づいたなら、その結果は広く周囲に及び、無数の利益を生むということ。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

6日

仏滅 張

旧11月18日

火曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪⑤

「僧伽婆伽地 帝隸阿惰僧伽兜略阿羅帝波羅帝 薩婆僧伽三摩地伽蘭地」

⑯僧伽婆伽地(そぎやはぎやだい)…「諸句を計す」と訳し、
仏さまのお言葉一句一句をしつかり読み込み
善く味わい納得すること。

⑯帝隸阿惰僧伽兜略阿羅帝波羅帝(ていれあだぞうぎやとり
やあらていはらてい)…「三世の数等し」と訳し、過去・
現在・未来に変わらぬ絶対の教えであること。

⑰薩婆僧伽三摩地伽蘭地(さるばそうぎやさんまじぎやらんだい)
：「有為を越える」と訳し、小さな自己を捨て、
世のために尽し人々を救うこと。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

7

大安 翼

旧11月19日

水曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢菩薩の陀羅尼呪⑥

「薩婆達磨脩波利刹帝 薩婆薩埵樓駄橋舍略阿菟伽地 辛阿毘吉利地帝」

⑯ 薩婆達磨脩波利刹帝(さるばだるましゅはりせつてい)…「諸法を学す」と訳し、あらゆる事柄を学び、世の中を知つて人々を救うこと。

⑯ 薩婆薩埵樓駄橋舍略阿菟伽地(さるばさつたろだきようし

やりやあときやだい)…「衆生の音を曉る」と訳し、大勢の人の声を聞いて、その意味を理解すること。

⑯ 辛阿毘吉利地帝(しんなびきりだいてい)…「師子娛樂」と訳す。師子とは最も勝れた教え||仏法のこと。「師子娛樂」は仏法を学び得た喜びを表わす。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

世尊。若後世。後五百歲。濁惡世中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。求索者。受持者。詠誦者。書寫者。欲修習是法華經。於三七日中。應一心精進。滿三七日已。我當乘六牙白象。與無量菩薩。而自圍繞。以一切衆生。所喜見身。現其人前。而為說法。示教利喜。亦復與其。陀羅尼呪。得是陀羅尼故。無有非人。能破壞者。亦不為女人。之所惑亂。我身亦自。常護是人。唯願世尊。聽我說此陀羅尼。即於佛前。而說呪曰

阿檀地	檀陀婆地	檀陀婆帝	檀陀鳩賒隸	檀陀脩陀隸	脩陀隸	脩陀羅婆底	佛馱波羶禰	薩婆陀羅尼阿婆多尼	薩婆婆沙阿婆多尼	脩阿婆多尼僧伽婆履叉尼	僧伽涅伽陀尼	阿僧祇	僧伽婆伽地	帝隸阿惰僧伽兜略
阿羅帝波羅帝	薩婆僧伽三摩地	伽蘭地	薩婆達磨脩波利刹帝	薩婆薩埵樓默	阿惰舍略阿	伽地	辛阿毘吉利地帝							

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

8日

赤口 軫

旧11月20日

木曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

とく もん ぜ だ ら に しや

得聞是陀羅尼者

「この陀羅尼を聞くことを得た者」

「陀羅尼を聞く」とは、ただ耳で聞くということではなく、心でよく理解し、陀羅尼に込められた普賢菩薩の思いを実践していくということです。

そのように決心して、信仰を実践していく者を普賢菩薩は守り導いてくださるのです。

普賢菩薩は絶対の「理」を司るので、本当にこの教えを弘めようと決心した者には「理」が身に付き、道に迷うことがなくなるのです。

真に陀羅尼を聞くことに努めましょう。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

9日

先勝 角

旧11月21日

金曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

ぎょうえん

ぶだい

行闇浮提

「闇浮提に行ぜん」

「闇浮提」とは全世界のことです。

法華経を全世界に弘めるのが最終目標ですが、そのためにはまず自分が住む国を法華経の国にすることから始めなければなりません。

それぞれの国には国民性があり、国ごとの争いがあり、教えが弘まつても国が転覆するようなことがあれば、一からやり直しになってしまいます。まず日本を法華経の国にして、その影響力を世界に及ぼすことを目指しましょう。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

10

日

土曜

友引 亢

旧11月22日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八
しゆ
ま
ご
ず

手摩其頭

「仏さまが頭を撫でてくださる」

インドでは頭を撫でるのは「あなたを信じます」というしるしです。

法華経を世の中に弘めて、仏さまの気持ちを人々に伝えるという貴いことをする人は、仏さまが信頼して弘教を委ねられたということです。

仏さまに信じられているわけですから、その御心に背くことがないように、一層法華経の修行に努めなければなりません。

先ずは法華経を受持から始めましょう。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

11

日曜

先負 氏

旧11月23日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

とう しよう とう り てん じょう

当生忉利天上

「忉利天上に生まれ変わる」

「忉利天」は欲界の六欲天のうちの第二で、須弥山の頂の中央には帝釈天が住む喜見城があり、その四方に八天ずつ眷属の天衆が住む三十三の諸天があるので「三十三天」ともいいます。

法華経を書写する修行を続けるだけでも、その功德は広大で、その人の命が尽きた後には忉利天上に生まれ変わることができます。天上界に生まれるということは、その功德の大きさを表しています。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

12

仏滅房

旧11月24日

日曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

即往兜率天上 弥勒菩薩所

「弥勒菩薩が説法する兜率天に生まれ変わる」

「兜率天」とは六欲天の第四天で、内外の二院があり、内院は将来仏となるべき菩薩の住処とされ、お釈迦さまもかつてここで修行された後にこの世に生まれ、現在は弥勒菩薩が住んでいます。法華経を受持・読・誦・解説した人が、いのち尽きた後に生まれ変わるとも説かれています。法華経を弘めようと努める者には、弥勒菩薩と同じ慈悲心が具わり、悦びの心をもつて過ごせるようになるということです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

13

日 火曜

大安 心

旧11月25日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

於如來滅後。閻浮提内。広令流布

「如來の滅後に於いて閻浮提の内に広く流布せしめ」

お釈迦さまの入滅後は世の中が険惡になり、眞実の教えでなければ人々を救うことができません。そこで普賢菩薩は法華経を守護し、教えが広まることに力を尽くすことを誓ったのです。

「閻浮提」とは須弥山の周囲の四大陸のうち南洲に属する島で、諸仏が出現するのはこの南洲だけであるといわれています。

日蓮聖人は、「閻浮提内」が仏法が流布すべき国土であることに着目され弘教に努めました。

法華経 日めくり

令和 8 年 丙午

2026 年

1 月

14 日 水曜

赤口 尾

旧 11 月 26 日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

我当以神通力

「お釈迦さまも神通力をもつて守護してくださる」

「神通力」の中で最も大事なことは心の迷いを除くこと、どのような境遇に置かれても心に迷いがなければ安樂の境地にいられます。

普賢菩薩の名を受持し、絶対の真理を求める心を持つ者を、お釈迦さまもまた神通力をもつて守護し、志を遂げさせようとしてくださるのであります。

法華経の修行を積み、法華経を自分のものとして実践していく者は、すなわちお釈迦さまにまみえることができるということです。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

世尊。若有菩薩。得聞是陀羅尼者。當知普賢。神通之力。若法華經。行闇浮提。有受持者。應作此念。皆是普賢。威神之力。若有受持詠誦。正憶念。解其義趣。如說修行。當知是人。行普賢行。於無量無邊諸佛所。深種善根。為諸如來。手摩其頭。若但書寫。是人命終。當生忉利天上。是時八万四千天女。作衆伎樂。而來迎之。其人即著七寶冠。於采女中。娛樂快樂。何況受持詠誦。正憶念。解其義趣。如說修行。若有人受持詠誦。解其義趣。是人命終。為千佛授手。令不恐怖。不墮惡趣。即往兜率天上。弥勒菩薩所。弥勒菩薩。有三十二相。大菩薩衆。所共因繞。有百千万億。天女眷屬。而於中生。有如是等。功德利益。是故智者。應當一心自書。若使人書。受持詠誦。正憶念。如說修行。世尊。我今以神通力故。守護是經。於如來滅後。闇浮提內。廣令流布。使不斷絕。

爾時釈迦牟尼佛讚言。善哉善哉。普賢。汝能護助是經。令多所衆生。安樂利益。汝已成就不可思議功德。深大慈悲。從久遠來。發阿耨多羅三藐三菩提意。而能作是神通之願。守護是經。我當以神通力。守護能受持。普賢菩薩名者。普賢。若有受持詠誦。正憶念。修習書寫。是法

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

15

日 木曜

先勝 箕

旧11月27日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

によじゅう ぶつ く

もん し きょうでん

如從仏口 聞此經典

「仏さまの口から直接教えを聴く」

仏さまから直接教えを聞くような心持になつた
なら、本当に經典を読んだことになるのです。

仏さまの深い教えを言葉や文字で、すべてを表す
ことはできません。

しかし、深く信じていると仏さまの御心が少しず
つ感じられるようになり、文字に表せない意味が
解つてくるものです。

法華経を読みながら、仏さまのお声が聞こえるよ
うになれば悦びに満ちた日々を送れるでしょう。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

16

友引 斗

旧11月28日

日 金曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

当知是人 供養釈迦牟尼仏

「この人はお釈迦さまを供養しているのだ」

華を捧げ、香を焚き、塔を建て、仏像を造ること
のみが供養ではなく、仏法を弘めるために力を尽
くすのが本当の供養です。

仏さまの思いを汲んで一切衆生を救うことが本
当の供養であり、それが仏恩に報いる道です。
それができると仏さまが善い事をしたと認めて
くださり、頭を撫で「お前を信用するぞ」と認め
てくださるのであります。
とてもありがたいことです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

17

日 土曜

先負 女

旧11月29日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

「また世楽に貪著せじ」

法華経を世に弘めるために力を尽くす人は、世間の楽しみに執着しなくなるということです。仏さまとともに過ごし、仏さまが自分を信じてくださっているという悦びを知ったならば、世間の楽しみなど求める気持ちが起きなくなるのです。ただし、楽しいことを無理に拒絶していると「ひねくれ者」と呼ばれ、世間から離れてしまします。自然の成り行きで日常の物事を楽しむことは「貪著」ではないので安心してください。

不復貪著世楽

ふ ぶ とん じやく せ らく

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

18

日

仏滅 虚

旧11月30日

日曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

不 好 外 道

「外道を好まず」

仏教以外の教えを好まないとは、全く関心を持つてはならないということではあります。

他の教えに心を惹かれないとということです。

仏教を弘めるためには、仏教以外の思想を学ばなければ、勝れている所を示すこともできません。偏狭に何もかも排除して、軽率に他の教えを否定しているのは本当の信仰とはいえません。

他の教えを学べば、法華経が最も勝れた教えであることがわかるのですから大いに学びましょう。

法華経 日めくり

令和 8 年 丙午

2026 年

1月

19

日 月曜

赤口 虚

旧 12 月 1 日

亦復不喜 親近其人

「また、其の人に願つて親近せじ」

「其の人」とは、畜肉や猟師など殺生を生業とする者、売春を斡旋する者などを指しています。

しかし、私たちは肉や魚を食べて生きているわけですからそれらを否定するのは矛盾を感じます。喜んで殺生するのではなく、いのちをいただくことに感謝をすることがとても大事です。

また、強者が弱者を圧迫して苦しみを生むことがないようには思いを巡らせなければなりません。矛盾を受け止めつつ慈悲を持ち続けましょう。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

20

日 火曜

大寒

先勝 危

旧12月2日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

しょう よく

ち そく

少欲知足

「欲は少なく、足るを知る」

「少欲」とは世俗の欲が少ないことです。

仏さまのようなりたいという思いは欲ではなく願いであり、世の中を善くする力です。

「知足」とは自分の現状に不満不平を感じることなく、なすべきことをなすということです。

どんな境遇においても自分の役割を十分に果たして、世の中を善くすることに努めることです。

法華経の最終章に「少欲知足」が説かれているのは大変意義深いことです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

21

友引 室

旧12月3日

水曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

によらい めつ ご

ご ご ひやくさい

如來滅後 五五百歳

「お釈迦さま滅後の五回目の五百年、末法の時代」

お釈迦さまが法華経を説かれた目的の一つは、当時の弟子たちに一代説法の結論を伝えるため、もう一つはお釈迦さま滅後の末法の険惡な世の人々に安心を与えるためです。

「五五百歳」とはお釈迦さま滅後の五回目の五百年、仏法が衰微消滅していく末法の時代です。

お釈迦さまは末法の衆生のことを持ち心配されて法華経を遺されたのです。その思いを受け止めて法華経を受持しましよう。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

爾時釈迦牟尼佛讚言。善哉善哉。普賢。汝能護助是經。令多所衆生。安樂利益。汝已成就不可思議功德。深大慈悲。從久遠來。發阿耨多羅三藐三菩提意。而能作是神通之願。守護是經。我當以神通力。守護能受持。普賢菩薩名者。普賢。若有受持詭誦。正憶念。修習書寫。是法華經者。當知是人。則見釈迦牟尼佛。如從佛口。聞此經典。當知是人。供養釈迦牟尼佛。當知是人。佛讚善哉。當知是人。為釈迦牟尼佛。手摩其頭。當知是人。為釈迦牟尼佛。衣之所覆。如是之人。不復貪著世樂。不好外道。經書手筆。亦復不喜。親近其人。及諸惡者。若屠兒。若畜猪羊鷄狗。若獵師。若銜壳女色。是人心意質直。有正憶念。有福德力。是人不為。三毒所惱。亦不為嫉妬。我慢。邪慢。增上慢。所惱。是人少欲知足。能修普賢之行。普賢若如來滅後。後五百歲。若有人。見受持詭誦。法華經者。應作是念。此人不久。當詣道場。破諸魔衆。得阿耨多羅三藐三菩提。転法輪。擊法鼓。吹法螺。雨法雨。當坐天人大

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

22

日 木曜

先負 壁

旧12月4日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

当詣道場

破諸魔衆

とう けい どうじょう

は しょ ま しゆ

「まさに道場に詣で、諸々の魔衆を破る」

「道場」とは、お釈迦さまが悟りを得てから教えを説き続けている場所です。

道場に詣でるとは、お釈迦さまと同じ場所で教えを聞き、人々に教えを説き導くことです。

「魔衆を破る」とは、修行が進み、結果が現れる頃に起きた様々な障害を打ち破ること。

末法に教えを弘める者は多くの迫害を受けます。そのようなときに堅固な信心をもつて努力した人が仏の境界に達することができるのであります。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

23

仏滅 奎

旧12月5日

日 金曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

所願不虛

亦於現世

得其福報

しょがん ぶ こ

やくお げんせ

とくご ふくほう

「所願虚しからじ、また現世に於いて福報を得ん」

「所願」とは、自分の欲望に囚われず仏さまの教えを世に弘めるという願いです。

その努力は必ず現世に於いて福報を得られます。

「福報」とは物欲や名譽欲がかなえられるということではなく、仏さまの教えが広まり一切衆生とともに安樂な世界で暮らすということです。

貧しさの中で人から不幸だと見られても、固い信仰心をもつて教えを伝える拠点となつていたら幸福な天地にいるといえるのでしよう。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

24

大安 妻

旧12月6日

日 土 曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

当世世無眼

とう せ せ む げん

「まさに世世に眼無かるべし」

法華経を弘めようと/or していいる人に対して、その妨げをする者は何度も生まれ変わっても目が見えない者となると説かれています。

世の中の大多数は、真実の教えを知らず、何が正しいのかということにも関心がありません。

誤った教えが示されれば容易に傾く人たちです。その人たちをそそのかし誤った教えに導くのは、他の人の仏の種を潰すという大罪を犯し、自身も真実を見る眼を失うことになるのです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

25日 **日曜**

赤口 胃

旧12月7日

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

出其過惡。若實若不實

「法華経の行者の失敗を吹聴する罪」

法華経を弘める者の失敗や、事実でないことまで吹聴する者は癩病になると説かれています。

人の過ちをあげつらうと、その相手が立ち直るきっかけを失わせたり、「あの人人が失敗するなら自分も許されるだろう」と世間に悪いことをする口実を与えるたりすることになってしまいます。

法華経受持者の過ちを吹聴すると、正しい教えが広まる妨げとなり、その罪は重いのです。その罪の結果、癩病を得ると説かれています。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

26

先勝 昴

旧12月8日

日月曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸發品第二十八

とく びやく らい びょう

得白癩病

「癩病を得る」

かつて癩病は前世の業(ごう)による「業病」とか伝染病であるといわれていました。

「得白癩病」の経文に癩病を業病だと見てしまうとしたら、それは歴史の中で作られてきた社会全体の癩病への嫌悪感や恐怖心、差別意識が主たる原因になっていると解釈すべきでしょ。

法華経の意図は、法華経受持者への誹謗を止めることがあります。重罪の報いとしてうける重病のひとつが癩病だと考えるのが妥当だと思います。

法華経 日めくり

令和 8 年 丙午

2026年

1月

27

友引 畢

旧 12 月 9 日

日 火曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

若有輕笑之者

「若しこれを輕笑する者あれば」

法華経を弘める者を輕蔑して笑うならば、身体に不具合が生じると様々な表現があり、重い病にかかるだらうと説かれています。

人は不完全であつても、内には完全な仏性があり、不完全な現実社会の中にも完全な教えを知ることができるのです。

人間の本性に基づいた教えを弘める者を悪く言うのは、その仏性を壊してしまつものであるからその罪が身体の障碍として表されています。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

28

先負 肴

旧12月10日

日 水曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸發品第二十八

とう
によ
きょう
ぶつ

当如敬仏

「まさに仏を敬うが如くすべし」

法華経を受持する者を見たら、仏さまがそこにいらっしゃるしやるよう敬いなさいと説かれています。お釈迦さま滅後の末法の世に教えを弘めようと力を尽くしている人を見れば、その思いが伝わり同じく信じ弘めようと実践する人が現れます。そして法華経を弘めている人同士がお互いに敬い合い、感謝し合う世の中になり、仏さまの国||仏国土が顕現されていくのです。そこは悦びに満ちた平和な世界です。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

普賢若如來滅後。後五百歲。若有人。見受持謡誦。法華經者。應作是念。此人不久。當詣道場。破諸魔衆。得阿耨多羅三藐三菩提。轉法輪。擊法鼓。吹法螺。雨法雨。當坐天人大衆中。師子法座上。普賢。若於後世。受持謡誦。是經典者。是人不復貪著。衣服臥具。飲食。資生之物。所願不虛。亦於現世。得其福報。若有人。輕毀之言。汝狂人耳。空作是行。終無所獲。如是罪報。當世世無眼。若有供養。讚歎之者。當於今世。得現果報。若復見受持。是經典者。出其過惡。若實。若不實。此人現世。得白癩病。若有輕笑之者。當世世。牙齒疎欠。醜唇平鼻。手脚繚戾。眼目角睂。身體臭穢。惡瘡膿血。水腹短氣。諸惡重病。是故普賢。若見受持。是經典者。當起遠迎。當如敬佛。說是普賢。勸發品時。恒河沙等。無量無邊菩薩。得百千万億。旋陀羅尼。三千大千世界。微塵等。諸菩薩。具普賢道。佛說是經時。普賢等。諸菩薩。舍利弗等。諸聲聞。及諸天龍人非人等。一切大會。皆大歡喜。受持佛語。作禮。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

29

仏滅 参

旧12月11日

日 木曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸發品第二十八

具普賢道

「普賢の道を具える」

「普賢道」とは、真実の「理」を弘めていくこと。

『普賢菩薩勸發品』が説かれたとき、聴衆たちは「旋陀羅尼」を得ました。

「旋陀羅尼」とは、多くの人を感化し、善を勧め、惡を止める力のこと。

三千大千世界の塵ほどの数の聴衆たちは「旋陀羅尼」によつて自ら正しい道を実行し、真実を世に弘めていく決心を固めたのでした。

法華経最終章にて普賢の道を具えたのです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

30

大安 井

旧12月12日

金曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

皆大歡喜

受持仏語

作礼而去

「皆大いに喜び、仏語を受持し、会座から去つた」

お釈迦さまが法華経を説かれたとき、普賢をはじめとした菩薩や声聞や天人たち一切の大衆は、皆大いに喜びました。

お互にこの教えを信じ、お互に敬い感謝し合つていけば、皆仏と成り仏国土を顕現できるのだということに大きな喜びを感じたのです。

そして法華経を信じ実践することを誓い、お釈迦さまに礼拝して会座から去りました。

法華経のフィナーレです。

法華経 日めくり

令和8年丙午

2026年

1月

31

赤口 鬼

旧12月13日

日曜

日めくり最終回

この「法華経めくり」を書き始めて三年一ヶ月、
一一二七回になりました。

二十八品の日めくりをまとめながら、解ったつも
りだつただけで何もわかつていなかつたのだと
気づかされることの連続でした。

法華経は読むたびに新しい発見があります。

この日めくりが、皆様が法華経を読む際の一助に
なればと思い本日まで続けてまいりました。

これまでお読みいただきありがとうございます。

妙法蓮華経普賢菩薩勸發品第二十八

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

所願不虛。亦於現世。得其福報。若有人。輕毀之言。汝狂人耳。空作是行。終無所獲。如是罪報。當世世無眼。若有供養。讚歎之者。當於今世。得現果報。若復見受持。是經典者。出其過惡。若实若不实。此人現世。得白癩病。若有輕笑之者。當世世。牙齒疎欠。醜唇平鼻。手脚繚戾。眼目角睇。身體臭穢。惡瘡膿血。水腹短氣。諸惡重病。是故普賢。若見受持。是經典者。當起遠迎。當如敬佛。說是普賢。勸發品時。恒河沙等。無量無邊菩薩。得百千万億。旋陀羅尼。三千大千世界。微塵等。諸菩薩。具普賢道。佛說是經時。普賢等。諸菩薩。舍利弗等。諸聲聞。及諸天龍人非人等。一切大會。皆大歡喜。受持佛語。作禮而去。